

鈴鹿市の公共事業予算について

(質問) ①道路事業と海岸堤防事業について、国・県への補助申請件数、措置率および単独費用の事業費について尋ねる。②投資的事業における単独事業費の割合は多いのか。

(答弁) ①道路事業は鈴鹿市道路整備プログラムなどに沿い、6月の概算要望、10月の本要望を経て補助申請を行い、交付決定通知は

翌年度初頭である。補助措置率は比較的高い。海岸堤防事業は海岸線約15.6km中、市が管理する漁港に係る海岸堤防約3.4kmが対象で、補助事業の補助率は2分の1である。

②単独事業費の割合は、平成29年度までの過去3カ年の平均で48.9%である。さまざまな補助メニューの活用や交付税措置率の高い市債の発行により一般財源の負担を減らして実施していく。

その他の質問 ○鈴鹿市のユニバーサルデザイン文書への取り組みについて

障がい者自立支援への取り組み

(質問) 「障害者基本法」から「障害者自立支援法」そして「障害者総合支援法」へと障がい者を取り巻く環境並びに法律は変遷し、法は、全ての障がい者が、今住んでいるその身近な場所において、日常生活、社会生活ができるための支援が受けられ、障壁となる社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものを除いて、

共生社会を実現するということを基本理念としている。このような中、知的障がい者が働く場所の草分け的存在であり、開設以来40年の歴史を有する就労継続支援B型事業所「すずのね」の土地建物の使用貸借契約が令和4年3月末に満了するが、本市としてどのような対応を考えているのか。

(答弁) 契約終了後も、就労継続支援B型事業所が継続できるよう検討していく。

その他の質問 ○豚コレラへの取り組みについて
○税・料における支払方法について

とぎれのない支援について

(質問) とぎれのない支援を行うため、①就学前の支援について、②就学後の支援について、③今後の支援についての3点について考えを問う。

(答弁) ①5歳児健診および健診後のフォローの充実を図り、保護者や園関係者などと連携して支援を充実させていく。また、就学に向

けて、教育との連携構築を進める。

②学校内の連携構築の推進を図ると共に教職員の負担軽減に努め、働きやすい環境を構築していく。また、保護者や子どもへの支援を進めるため、今後も有識者を招聘するなど職員研修を充実させていく。

③新しく開設された「すずっこスクエア」において市民ニーズに対応するため人員確保が必要と考えている。5歳児健診をはじめ、さまざまな支援事業を遂行し、安心して子育てできる街「すずか」を全国にPRしていきたいと考えている。

小学校教科担任制と教科センター方式について

(質問) 「中1ギャップ」などの小中学校間の連携・接続に関する課題を解消するため、①小学校高学年からの教科担任制の導入、②異校種間の教員交流についての考えは。また、③各教科の専用教室を用いる「教科センター方式」についての市の考えは。

(答弁) ①小学校から中学校への移行を円滑

に行うには、高学年での教科担任制の実施は有効であると捉え、国の動向に注視しながら専科教員による授業を取り入れていきたい。

②平成27年度から中学校英語科教員が小学校へ出向く乗り入れ授業を進めており、本年度は3つの中学校区で実施している。教職員の研修においても、小中合同研修会などの開催をしている。

③一部の小中学校で空き教室を教科専用教室として活用し、教科センター方式の利点につながる授業づくりを進めている。

その他の質問 ○子育て支援について